

茨城県

地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

- 本県の人口10万人当たりの医師数は166.8人であり、全国46位と低位にある。また、二次保健医療圏別では、9つのうち6つの医療圏で全国平均の半分に満たないなど医師の地域偏在が見られる。
- 医師の絶対数を確保するとともに、県北地域をはじめとした医師不足地域への医師の確保を図っていく必要がある。
- また、救急医療など政策的な医療提供体制を確保するとともに、医師不足診療科である小児科、産婦人科などの医師を確保していく必要がある。
- さらに、震災の影響により、医師の県外流出や新規就業のキャンセルなどが見られるなど、本県の医師確保に関する情勢は震災前とは一変し、極めて深刻な状況となっている。そのため、医師確保のための総合相談窓口を設置し、高校生・医学生・研修医・医師などそれぞれの段階に応じた総合的な医師確保対策を講じている。
 - ・地域枠や修学資金の貸与などによる地域医療を担う医師の養成・確保
 - ・筑波大学をはじめ5つの医科大学に設置している寄附講座を活用した、医師不足地域等への医師の確保

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- 地域枠学生や修学生との個別面談を実施し、状況把握や意識啓発、県内臨床研修病院の状況や、県の支援制度について情報提供を実施。
- 新6年生を対象に県内臨床研修病院へのマッチングに向けた意識付けを行うため卒後進路セミナーを開催

【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

個別面談 : 面談者97名 (対象者101名)
卒後進路セミナー : 8名
地域枠の設置 : 5大学25名 (H24年度貸与者累計61名)
修学資金貸与者 : H24年度予定 61名

【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

- 医師不足地域の指定医療機関での一定期間の従事義務など、派遣調整が可能となるような制度の検討。
- 地域枠や修学生が義務年限を離脱することなく、地域医療に従事できるような魅力ある研修環境の構築。

【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

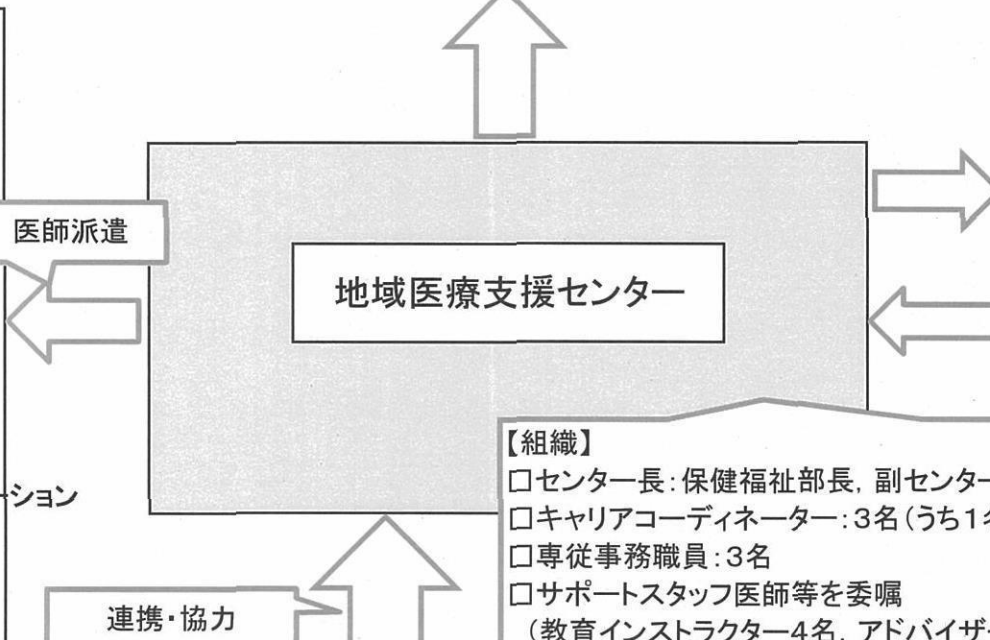
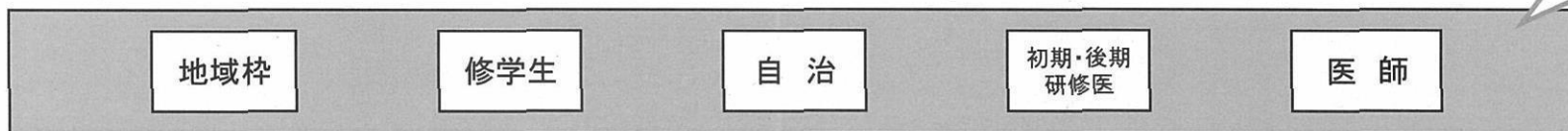
- 修学生医師や修学生を対象に、毎年、キャリアコーディネーターによる個別面談を実施し、地域医療に従事しながらでも、本人の志向に配慮したキャリア形成ができるようオーダーメイドのキャリア形成支援を実施。
- 地域医療に従事することへの不安の解消や、修学生や修学生医師間の連帯感や地域医療に従事する使命感を醸成するため、修学生の集いや修学生ゼミを開催。
- 医学への関心と本県の地域医療に貢献する意識を高め、将来の地域医療を担う人材を育成するため、高校生を対象とした病院見学会や医学生を対象とした地域医療セミナーなどを開催。
- 若手医師の研修環境の充実を図るため、地域医療に従事しながらでも、最新の医療技術等が学べるよう研修会・セミナー等を開催。

【地域医療支援センターの実施スキーム】

【センター設置の考え方】

- センターは、医師修学資金や県地域枠の卒業医師をはじめとする若手医師のキャリア形成支援を行う。
- センターには、専任の医師であるキャリアコーディネーターを配置するとともに、教育インストラクターやアドバイザーなどのサポートスタッフ医師等を委嘱する。

ターゲット



- ### <センターの主な業務>
- ①地域枠等医師のキャリア形成支援
 - ②医師不足地域の病院等への医師派遣調整
 - ③地域医療に従事する医師の支援
 - ④総合相談窓口の設置と情報発信
 - ⑤指導医の養成と研修体制の整備
 - ⑥地域医療関係者との意見調整

【全体調整・意見聴取】
県地域医療対策協議会(委員20名)

- ### 【組織】
- センター長:保健福祉部長, 副センター長:医監, 医師確保対策室長
 - キャリアコーディネーター:3名(うち1名は副センター長兼務)<任期2年間>
 - 専従事務職員:3名
 - サポートスタッフ医師等を委嘱(教育インストラクター4名, アドバイザー3名)<任期:2年間>
- ### 【運営】
- 地域医療支援センター運営委員会にて運営全般や派遣調整方針を協議する。<任期2年間>
 - ※運営委員会17名:センター長, 初期・後期研修病院代表, 医師不足地域病院代表, 地域枠関連病院代表, 県医師会, 筑波大学, キャリアコーディネーター, 教育インストラクター
 - ・運営委員会では, 県地域医療対策協議会で審議するキャリア形成支援や派遣調整のための原案を協議・作成する。
 - ・各年度ごとに実施する事業の協議・承認を行う。
 - その他, 地域枠大学協力員・臨時講師を配置(必要に応じて依頼)

6. 運営委員会:17名<任期2年間>

所属	役職等	氏名
センター長	茨城県保健福祉部長	土井 幹雄
日製日立総合病院	副院長	藤田 恒夫
筑波メディカルセンター病院	救命救急センター長	河野 元嗣
茨城西南医療センター病院	内科部長	飯塚 正
北茨城市立総合病院	外科部長	小出 綾希
常陸大宮済生会病院	副院長	小島 正幸
なめがた地域総合病院	副院長	湯原 孝典
土浦協同病院	小児科部長	渡部 誠一
東京医大茨城医療センター	副センター長, 集中治療部准教授	柳田 国夫
県医師会	常任理事	山脇 英範
筑波大学	総合臨床教育センター部長	前野 哲博
茨城県地域医療支援センター	キャリアコーディネーター	小島 寛
茨城県地域医療支援センター	キャリアコーディネーター	荒井 康之
茨城県地域医療支援センター	教育インストラクター4名	3のとおり

【地域医療対策協議会:20名】<任期1年間(再任可)>

所属	役職等	氏名
筑波大学附属病院	院長	五十嵐 徹也
東京医大茨城医療センター	センター長	松崎 靖司
水戸医療センター	院長	園部 眞
水戸済生会総合病院	院長	村田 実
茨城県立こども病院	院長	土田 昌宏
日製日立総合病院	院長	奥村 稔
北茨城市立総合病院	院長	植草 義史
土浦協同病院	院長	家坂 義人
筑波メディカルセンター病院	院長	軸屋 智昭
常陸大宮済生会病院	院長	伊東 紘一
西南医療センター病院	院長	亀崎 高夫
なめがた地域総合病院	院長	田畑 均
茨城県	病院局病院事業管理者	金子 道夫
茨城県医師会	副会長	諸岡 信裕
茨城県男女共同参画委員会	委員長	青木かを里
自治体病院協議会	茨城県支部長	永井 秀雄
茨城県医療改革担当顧問	茨城県医療改革担当顧問	山口 巖
筑波大学	産婦人科教授	吉川 裕之
茨城県看護協会	会長	村田 昌子
茨城県消防長会	会長	木内 倉治

【地域医療支援センター構成メンバー】

1. 正副センター長及び顧問:4名

所属	役職等	氏名
センター長	茨城県保健福祉部長	土井 幹雄
副センター長	茨城県医師確保対策室長	藤枝 昭司
センター顧問	茨城県医療改革担当顧問	山口 巖

2. キャリアコーディネーター:2名<任期2年間(再任可)>

所属	役職等	氏名
茨城県立中央病院	副院長	小島 寛
生きいき診療所 ゆうき	診療所長	荒井 康之

3. 教育インストラクター:4名<任期2年間(再任可)>

所属	役職等	氏名
水戸協同病院	筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター総合診療科教授	徳田 安春
水戸済生会総合病院	消化器内科部長	鹿志村 純也
水戸医療センター	内科医長	米野 琢哉
茨城県立中央病院	救急部長代理	関 義元

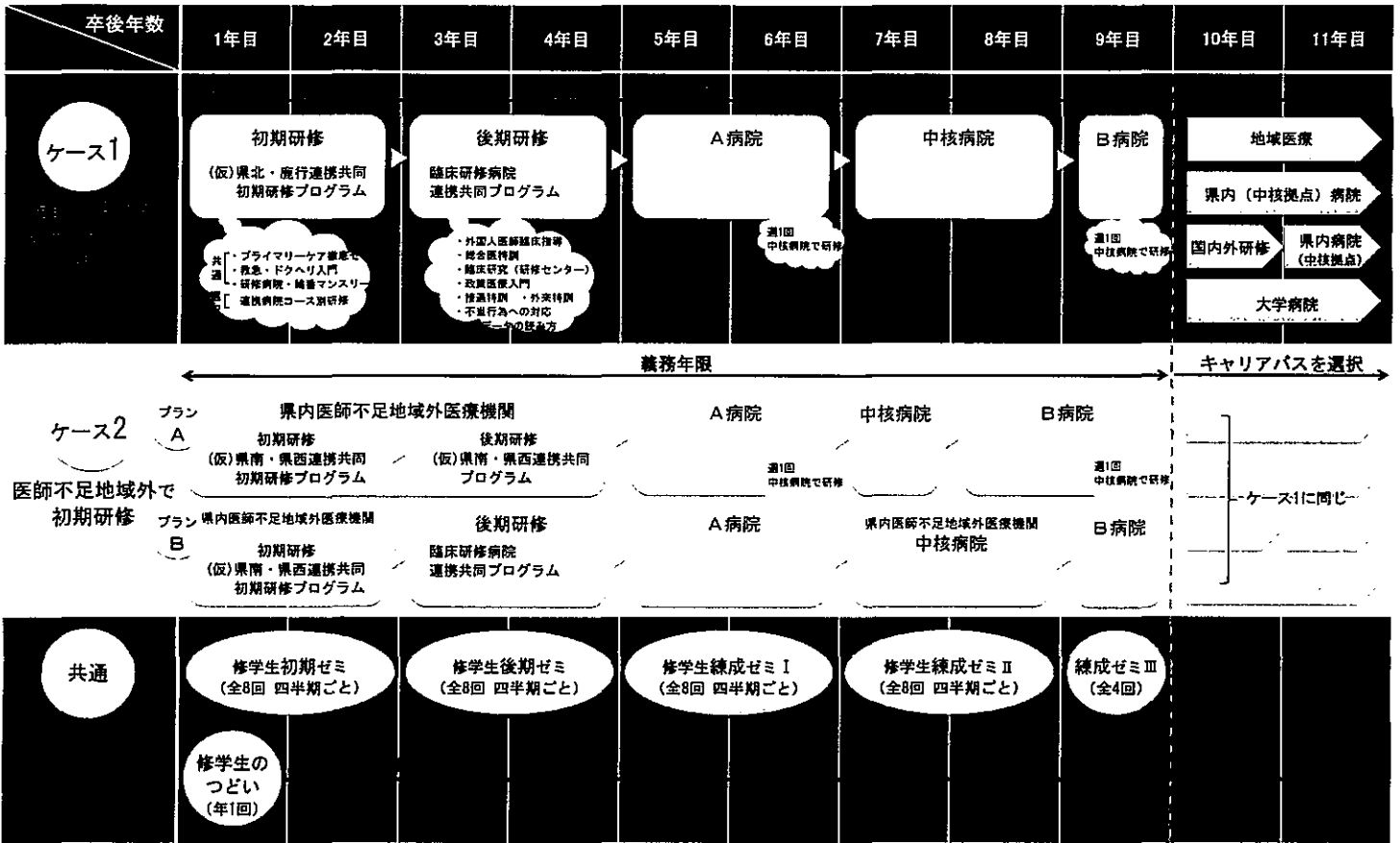
4. アドバイザー:3名(旧医師確保対策監)<任期2年間(再任可)>

所属	役職等	氏名
茨城県立中央病院	副院長	吉見 富洋
北茨城市立総合病院(県派遣)	院長	植草 義史
つば保健所	所長	石田 久美子

5. 外部協力員:4名【県外地域梓関連大学】

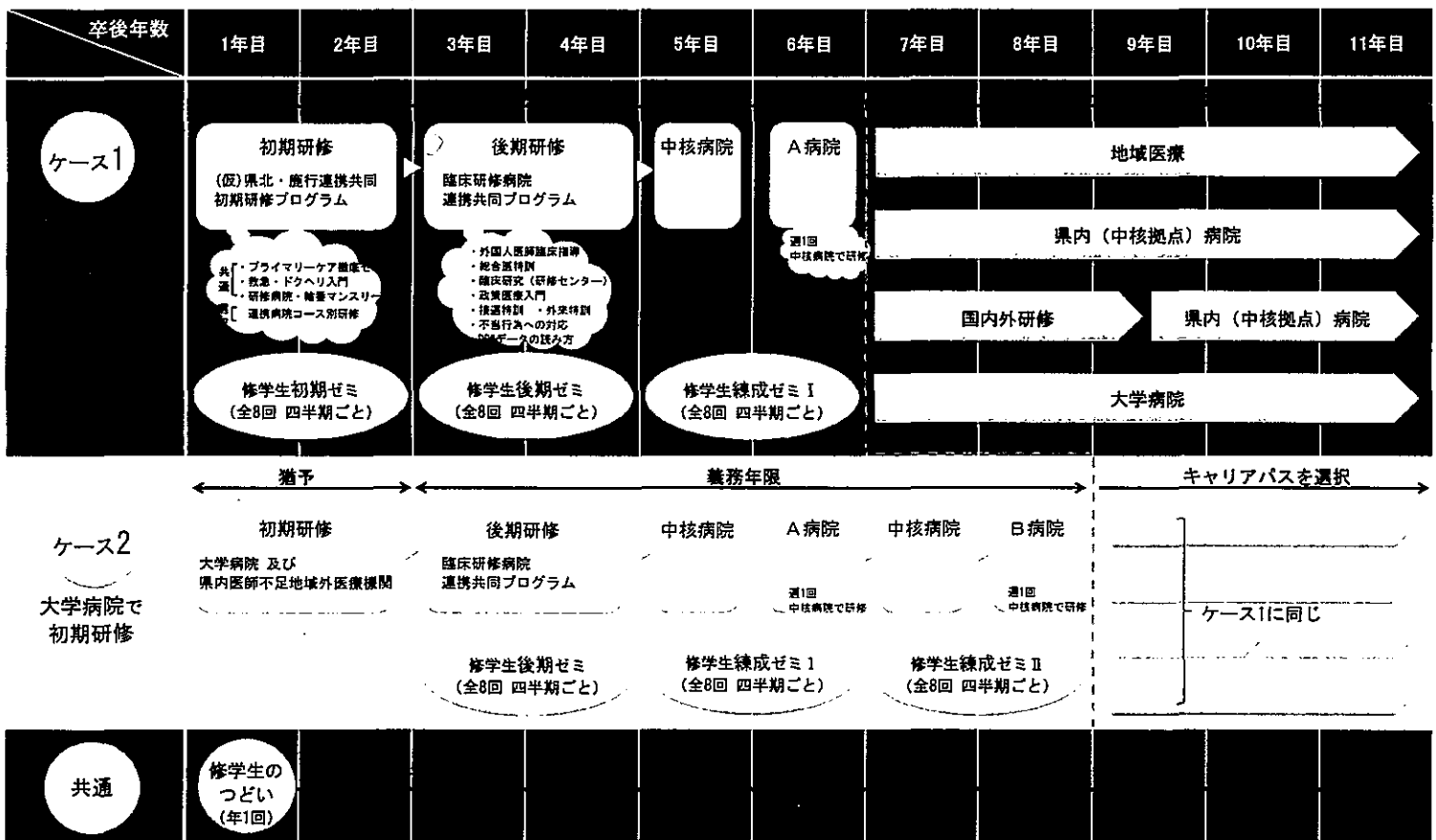
所属	役職等	氏名
東京医科歯科大学	大学院医師学総合研究科 小児・周産期地域医療学講座 寄附講座 教授	宮坂 尚幸
東京医科大学	放射線医学講座 主任教授	徳植 公一
杏林大学		調整中
日本医科大学		調整中

地域枠修学生キャリアパス案(義務年限9年の場合)



※医学部大学院に在学しているときは猶予期間となる。

修学生キャリアパス案(義務年限6年の場合)



※医学部大学院に在学しているときは猶予期間となる。

4 個別面接・相談支援

(1) 目的

- ◎修学生として充実した学生生活を送るとともに、将来、茨城の地域医療を担う使命感と意欲の維持、発展
- ◎将来への不安なく、夢と希望を持って茨城の医療に従事できるようサポート

(2) 対象

修学生（全学年）

(3) 時期及び趣旨

- 1～4年生：夏休み（8～9月）または冬休み（12月）→年1回
修学状況など
- 5年生：夏休み（8～9月）と春休み（3月※卒後進路セミナーと同時）→年2回
進路、マッチング希望病院など
- 6年生：冬休み（12月）
研修病院決定後、具体的なキャリアパスの相談、策定
※今年度はマッチング前の6月頃の開催を検討

5 卒後進路セミナー

(1) 目的

県内臨床研修病院へのマッチングに向けたサポートを行う。

(2) 対象

修学生（新6年生）

(3) 時期

春休み中（3月下旬）

(4) 内容

- ・県内臨床研修病院の指導医による講話
- ・マッチングに関する個別相談会
- ・懇親会

6 その他

- 研修医向けセミナー等についても、医学生に参加案内するもの有。

【地域医療支援センターの当面の検討事項】

(1) 派遣調整ルールの策定

(2) 修学生医師へのキャリア形成支援

- ・個別面談とキャリアアップ支援
- ・各種研修事業の具体的カリキュラム等
- ・修学生医師のネットワークづくり（修学生医師のつどい等の企画、運営）

1 新入生オリエンテーション

(1) 目的

修学生としてのモチベーション向上及び同期の連帯感醸成

(2) 対象

地域枠新入生、修学生新入生、自治医大新入生

(3) 時期

大学入学前の春休み中（3月）

(4) 内容

- ・県内の指導医による講話（医師になるための心構え、望まれる医師像など）
- ・茨城県について知る
- ・修学生のネットワークづくり

2 修学生の集い（地域医療セミナー・合宿形式）

(1) 目的

- ・修学生同士の連帯感を深める。
- ・地域医療について学ぶ
- ・医療技術を学ぶ
- ・キャリアコーディネーターや先輩との意見交換を通じて将来のキャリアについて考える。

(2) 対象

修学生(全学年) 1～4年生
5, 6年生 に分けて実施

(3) 時期

夏休み期間中など、宿泊研修

(4) 内容

- ・地域医療に関する講義
- ・医師不足医療機関、診療所見学
- ・修学生医師（先輩）とのディスカッション

3 病院見学会

(1) 目的

県内の医療事情についての知識を深める機会とする。

(2) 対象

全学年

(3) 時期

長期休暇期間中

(4) 内容

- ・県内医療機関の見学（医師不足医療機関、臨床研修病院）
- ・現場で活躍する医師との意見交換
- ・茨城県の医療事情に関する講話